

まなびの丘フィールドワークについて

「まなびの丘フィールドワーク」(以下、フィールドワークとする)は、まなびの丘周辺の見学スポットを回り、水俣病に関する知識を深めていただくことを目的としています。

○概要や注意事項

- ・資料1を見ながら3地点の見学スポットを回ります。(施設職員の説明等はありません。)
- ・3地点は①エントランス(入口)、②カモメ展望所、③水俣メモリアルとなります。各地点の位置は図1のとおりです。
- ・到着後すぐにフィールドワークを行う場合は、
①エントランス(入口)→②カモメ展望所→③水俣メモリアルの順序がスムーズです。
- ・最後にフィールドワークを行う場合は、
③水俣メモリアル→②カモメ展望所→①エントランス(入口)の順序がスムーズです。



図1 まなびの丘周辺地図と見学スポット
(①エントランス(入口) ②カモメ展望所 ③水俣メモリアル)

○各見学スポットについて

①エントランス（入口）の橋の上から南側（グラウンド側）を見る

（見学のねらい）

埋立地を見学し、水銀で汚染された海がどのように改善されたかを知り、環境を守ろうとする心を養う。

（説明）

エントランスの橋の上から、南側（グラウンド側）の埋立地を眺めます。

目の前に広がるグラウンド（エコパーク水俣という）は、かつてすべて海でした。メチル水銀を含んだ工場排水により汚染されたため、水俣湾の海底にたまった水銀を含んだヘドロを取り除いて、埋め立てる工事を行い、14年の期間と485億円をかけて、約58haの広い埋立地が完成しました。

一度壊された環境を取り戻すために、膨大な時間とお金がかかっています。

ごみのポイ捨ては簡単にできますが、川や海に流されたごみを拾うのはとても大変です。同じように環境を破壊することは簡単にできますが、一度破壊された環境を取り戻すのはとても大変です。自分の生活を見直し、環境を守るためにできることから始めましょう。



①エントランス（入口）



エコパーク水俣（埋立地）

②カモメ展望所から海と島々を見る

（見学のねらい）

現在の水俣の海を眺め、豊かな海を肌で感じる。

（説明）

カモメ展望所から、海を眺めます。海の向こうには、天草や鹿児島県の島々が点在しています。御所浦島や獅子島は白亜紀の化石が出るので、「恐竜の島」と呼ばれています。

展望所の下には、水俣湾と外の海とを仕切る仕切り網の台座が2基残っています（展望所からは見えません）。水俣湾の水銀に汚染された魚を外に出さないように恋路島（展望所から見て左側）の外側まで仕切り網で覆われていました。

水俣の海は、現在は県下でも有数のきれいさで、魚や貝類、海藻などたくさんの生き物が住んでいます。命あふれる海と言えます。



②カモメ展望所



仕切り網台座跡

③水俣メモリアルで水俣病を考える

(見学のねらい)

水俣病の過去、現在、未来に想いをめぐらせる。

(説明)

水俣病公式発見から40年目にあたる1996年に完成しました。

水俣メモリアル設置の目的は、以下の3点です。

○水俣病により犠牲となられた方々に対しての慰霊・鎮魂

○水俣病の経験を踏まえ、災禍を再び繰り返さないことの祈念

○水俣病の教訓を後世に伝えること

水俣メモリアルには108個のステンレスボールが配置されています。ステンレスボールは、様々なものの象徴です。「何か」が海に降りていくようにも、丘に登ってくるようにも見えます。

あなたはどのように見えますか？



③水俣メモリアル



ステンレスボール